

2023年7月28日(金)

テクノフロンティア 2023 参加メモ書き

娑婆の空気を吸う

群馬大学小林春夫

- 7月27日(木)テクノフロンティアに参加。久しぶりの対面の展示会である。
[TECHNO-FRONTIER 2023 | 日本能率協会 \(jma.or.jp\)](https://www.jma.or.jp/techno-frontier-2023/)

併設のメンテナンス・レジリエンス TOKYO 2023 ものぞいてみる。
[メンテナンス・レジリエンス | 日本能率協会 \(jma.or.jp\)](https://www.jma.or.jp/maintenance-resilience-2023/)

- パワエレ、昔の言葉の「強電」分野の日本での学会、イベントは人がたくさん集まるように印象を持っている。これに気が付いたのは下記で並列セッションの一つで学生の発表をした際に100人程度の聴講者がいたときである。

電気学会 産業応用部門大会、群馬大学 荒牧キャンパス(2016年8月)

「弱電」分野の国内学会・研究会では多くの場合聴講者はずっと少ない。

- 車載関係等の高信頼性を求められる制御では、標準的にマイコンを2つ持ちお互いが相手が故障してないかをチェックしあう冗長構成をとっている。欧州にその規格があるとのこと。
- 中国企業が高速サンプリング、広帯域オシロスコープのラインアップを低価格で出展していたのは驚いた。精華大学卒業生2名が20年くらい前に設立した会社で、現在中国の科学技術の研究教育政策により全国の大学に導入しているので多くの数が出ており、低価格にできるとのこと。WEBで検索すると中国のオシロスコープメーカーがたくさんでてくる。同国大学からの論文で産業界の観点からもプロフェッショナルな内容であるものをいくつか見て不思議(?)に思ったが、これで事情が分かった。
- 九州地区での半導体関係の産業・大学の盛り上がりをうかがい知る。